

『社会イノベーション研究』の創刊にあたって

成城大学社会イノベーション学部は、2004年11月30日に文部科学省の設置認可を得て、2005年4月1日に創設された。成城大学としては第4番目の学部で、ディシプリナリーな学部ではなく、問題志向・解決型の学部として、イノベーションを学部名に付した日本で初めての学部である。完成時には30人の教員組織となるが、創設時は22人でスタートし、学年進行に伴い、教員も増加することになっている。各方面のイノベーションの専門家がスタッフとして赴任するが、全教員が揃ったところで、社会イノベーション学部の提示する研究内容の全貌が分かることになる。しかし、それを待たずに、本学部が提示したい社会イノベーション学を個々の教員の研究成果の発表の場として設けたのがこの紀要である。

個々の教員の研究成果は内外の学会誌、査読付き学術誌などに発表されることが望ましいが、査読付き学術研究雑誌への掲載は時間的に後れることも多いので、本紀要は機動性を活かし、かつ内容の仕掛け性を重視して刊行していきたい。十分な完成度がなくても、アイデアないし分析途中での成果を公表することで、学内外の研究者に対する情報提供を積極的に行ないたいと考えている。無論、本学部のホームページ上でPDF化の上、掲載し、情報発信する予定である。

多くの大学紀要は査読制度を採用していないが、本紀要は査読性も視野に入れ、内外の学外研究者からの投稿も受け入れたいと考えている。いずれにせよ、日本初の学部のスタッフがいかなる社会イノベーション学を提示するかが、日本におけるイノベーション研究の拠点としての確立と関わるものであり、本紀要が新たな時代のページを開くことを期待している。本紀要への掲載が社会イノベーション学を志す研究者の憧憬の存在となることを祈念している。

創刊にあたり、社会イノベーション学部の創設の経緯について学部長の覚書を掲載しておいた。正史ではないので、事実の誤認等もあるかもしれないが、新学部の創設の努力の跡を残すことで、新学部創設に尽力された多くの関係者への深甚の感謝の念を表したかったからである。

2005年11月
学部長 村本 孜